

平成30年度第3回新宿区東京2020大会区民協議会 会議要旨

<開催日>

平成30年12月27日（木）

<場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（24名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、田中稔、武山昭英、馬場章夫、島田治、佐藤陽一、安齋正義、吉田淳子、今井康之、渥美淳子、小川定弘、勝部和彦、的場美規子、山本芳裕、佐原たけし、久保広介、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男、三井梨紗子

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長（地域振興部長）、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【村岡座長】

皆さん、こんにちは。

本日は年末のお忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ただいまより平成30年度第3回新宿区東京2020大会区民協議会を開催させていただきます。

次第に沿って進行を進めさせていただきます。

最初に、次第の1、大会500日前記念イベントについてです。

今年度は部会において様々な検討をしていただきましたが、その中で、新宿区の主催イベントにおいて各関係団体が結束し、より効果的な普及啓発を推進していくという取組みの方向性が、東京2020大会普及啓発部会において示されました。

その方向性が示されて以降、初の新宿区のイベントとなるのが、この大会500日前記念イベントになります。

これまでの新宿区のイベントから、更にパワーアップした内容になっているということですので、新宿区からイベント内容についてご報告いただき、この協議会の中で意見交換をしたいと思います。

それでは、大会500日前記念イベントについて、事務局より説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、事務局から説明をさせていただきます。

資料1「大会500日前記念イベントについて」をご覧ください。

2018年6月9日に開催した大会777日前記念イベントには、1日で2,700名の方にご来場いただ

きました。このイベントの結果なども踏まえ、普及啓発部会で色々のご議論いただき、9月11日の協議会でご報告いただいた検討結果を踏まえて、この大会500日前記念イベントの企画をしています。

まず、開催日ですが、2019年3月3日(日)です。会場は西新宿小学校ですが、隣接する旧淀橋第二中学校と西新宿子ども園も会場として使用します。

今回のテーマですが、「多様性と調和」というテーマを掲げています。こちらは、東京2020大会の大会ビジョンにございます3つのコンセプト、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の中から、その内2つ目の「多様性と調和」というコンセプトを今回のイベントのテーマとしています。

内容ですが、第一に、スポーツ教室です。新国立競技場で実施されるサッカーや、走り方教室といったスポーツ教室を実施します。第二に、スポーツ体験ブースです。777日前イベントではサイバーボッチャを実施したのですが、今回はサイバーウィル、VRで実際の車椅子レーサーの体験ができるというものや、ラグビーのスローインターゲット、サッカーのキックターゲット、車いすでのボッチャ体験等の競技体験を実施します。

こうしたスポーツ教室やスポーツ体験のほかに、今回、区民協議会にご参加いただいています各団体様にも出展という形でご協力をいただいています。まず、新宿区小学校PTA連合会様には、新宿シティハーフマラソンの小学生の部の表彰式や、星奈津美さんの講演会などを実施していただく予定です。

それから、新宿区障害者福祉協会様よりウォールパズルアートをご出展いただく予定です。先日、新宿区役所本庁舎1階にて、ダイバーシティ・ウォールパズルアートの展示がございました。こちらについて、新宿区障害者団体連絡協議会様よりご紹介いただければと思います。

【委員】

私どもでは、新宿区障害者団体連絡協議会が母体となって、社会福祉法人新宿区障害者福祉協会を運営しています。また、新宿区内の社会福祉法人が集まり、新宿区内社会福祉法人連絡会が組織されていまして、そこが主催となって実施しているイベントがダイバーシティ・ウォールパズルアートです。多様性の社会をどんどん意識づけていくということで、赤ちゃんから子ども、障害者、高齢者、その他新宿区内にある施設に入所されている方、通所されている方など様々な方を対象として、ダイバーシティ・ウォールパズルアートをやっています。12月4日から5日の障害者週間の際、新宿駅西口広場で障害者作品展がございました。その中でもイベントとして実施して完成した作品を、新宿区役所本庁舎1階に展示していました。

このダイバーシティ・ウォールパズルアートは、絵心がなくても、誰でも参加ができるような取組みとして、新宿区在住のアーティストの方も交えて行っているものですが、今年4月にも新宿コズミックセンターでのレガスマつりや、夏には区内の保育園や幼稚園、小学校のお子さんを対象として行ったりしています。

最終的には大きな一つの絵として完成するのですが、実は一つひとつはピースとなっていて、例えば、ハート型のメモ用紙にそれぞれの思いを書いていただき、それを張りつけて一

つのアートとして完成させるという内容です。この時は、「思う心、思われる心、合わせて思い合う心」というテーマで、日ごろ感謝している言葉や、大切にしている言葉を皆様に記載していただきました。

今度の500日前イベントでも、皆さんのご協力を得て実施させていただければということで、ご提案をさせていただきます。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ありがとうございます。

ただ今ご紹介いただきましたこちらのダイバーシティ・ウォールパズルアートですが、500日前のイベントの中で実施する予定です。

ほかにも、各関係団体様による出展として、十二社商店会親睦会様に、工学院大学とのコラボレーションということで、「はかる」をテーマにした「ハカリンピック」をご出展いただきます。

そのほか、新宿区民謡連盟様には東京五輪音頭を踊っていただきます。また、新宿区グラウンドゴルフ協会様、日本スポーツチャンバラ協会様、新宿区サッカー協会様、新宿区社会福祉協議会様からも、それぞれご出展いただくということで調整を進めさせていただきます。

次に、演奏・パフォーマンスの発表ということで、こちらは前回も実施しましたが、小中学生による金管バンド等の演奏の発表を行います。

次に、その他のブースとして、新宿区の地場産業である染物の体験コーナー、乳幼児が参加できるような撮影会として「おひるねアート」も実施します。

また、障害者の方々の製作した作品の販売や、国際交流・地域交流をテーマとした、様々な国の料理の販売ブース、物産展等も実施します。

最後に、ボランティアの参加ということで、今回の500日前イベントについては、会場整理やブース運営補助などに、事前募集したボランティアの方々にお手伝いいただく予定です。このように、ボランティアの方の活躍の場をつくっていきたくと考えています。

500日前イベントの中では、こうした様々なコンテンツを企画しているところであり、前回を超える規模、来場者を目指して実施したいと考えています。

最後に、今後の展開ですが、今回は500日前イベントということで実施しますが、また来年度以降、250日前イベントやラグビーワールドカップパブリックビューイングなど、様々なイベントがございます。そうした今後のイベントに向け、ぜひ区民協議会の委員の皆様におかれましては、可能な範囲で結構ですので、今回の500日前イベントにお越しいただき、どういったイベントかというものを見ていただけたらと考えています。

その上で、ぜひ率直なご意見、ご提案をいただき、それを基に部会でご議論いただき、今後のイベントを更に魅力的なイベントにしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

この大会500日前記念イベントですが、本年度最後の大きなイベントです。これまでと大きく異なっている点は、区民協議会の構成団体の皆様から様々なご協力を得ているという点と考えています。

これから、意見交換をさせていただければと思っています。特に、本イベントに協力しているらっしゃる団体の委員の方から、何かご発言などいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【吉住区長】

新宿シティハーフマラソンの話が少し出たかと思うのですが、こちらは新宿未来創造財団で実施しているイベントでして、小学生は参加してくれるものの中学生の参加が少ないということが言われています。中学校になるとどうしても外に目が向くので、なかなか参加する生徒が少ないということがあろうかと思いますが、その辺りの働き掛けはどうなっているのでしょうか。

【委員】

新宿区未来創造財団から回答させていただきます。新宿シティハーフマラソン、区民健康マラソンの中学生への働き掛けですが、従来、学校にポスターを掲出するという形をとっていたのですが、実行委員会からも同様のご指摘をいただいております。各生徒全員にチラシをお配りする形で参加を促す取組みを昨年からは実施しており、その結果、少しずつ中学生の参加が増えてきています。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

これまでの気運醸成イベントもそうですが、参加者の年齢層としては、小学校低学年以下、未就学児のお子さんが非常に多いという状況です。ですので、中学生の参加をどのように取り込んでいくかというところは課題だと思っています。今回の500日前イベントでは、今までよりコンテンツを充実させていますので、ぜひ多くの中学生の方においでいただけるといいと思っています。一方で、中学生のボランティアの体験や活動の機会といったものは、イベントとはまた別に創出していくべきではないかというご意見もボランティア部会からいただいておりますので、その辺りについて、新宿区中学校PTA協議会の方とも調整を進めさせていただければと考えています。

【村岡座長】

ありがとうございます。

イベントでのボランティア募集に当たっては、何か留意しておくべきことなどはありますか。

【委員】

新宿未来創造財団では、新宿シティハーフマラソンを初め、スポーツや日本語教室、博物館案内等、非常に幅広い分野においてボランティアの方にご活躍いただいております。

留意点ですが、まずはボランティアとして活動していただく内容を明確にすることと思います。マニュアルをつくり、できれば説明会で説明を行うという形で、しっかりやっていただくということがあります。

次に、11月3日開催のボランティアフォーラム2018でもご意見をいただいていたのですが、やらされ感がでないようにすることが大切だと思います。例えば、ボランティアの中にリーダー的存在を担っていただく方をつくるよう心掛けています。運営側に全て聞くのではなく、自分たちで考えて活動しているというような意識を持っていただければと思います。

それから、運営面ですが、ボランティア保険に入っておくことも必要だと思います。個別に入っていただくか、できれば運営側で入って、万一のことがあってもフォローができるような形をとっておくことが必要だと思います。

また、人と接することが多いボランティアの場合、研修などを行って接遇の面をしっかりと養成させたほうが良いと思います。

最後に、大会ボランティアや都市ボランティアはユニフォームが配られると聞いていますが、そういったボランティアとして活動したことが形に残せる何かを用意できればなお良いと思います。

【村岡座長】

ありがとうございました。

ほかの委員はいかがでしょうか。

【委員】

新宿区中学校PTA協議会で検討していることをお話しさせていただければと思います。

今朝のNHKニュースをご覧になられた方も多いと思いますが、2019年1月の箱根駅伝で5連覇を目指す青学の原監督が出ていまして、5連覇の鍵は5区の山登りだということで、作戦名をゴーゴー大作戦と名づけておられます。それにちなんで、今、私たちが子どもたちと一緒に何となく形づくっていったらと思っているのは、牛込第三中学校の「3」と、3月にできたらやりたいなと思っていることを合わせて、サンサン大作戦という名前にしてやっていきたいと思っています。

今、お話がありましたが、やはりボランティアする中で、リーダーの存在が大切だということを身に染みて思っています。実は、11月10日に、新宿区の危機管理課の方に大変なご支援を頂戴して、牛込三中で避難所開設訓練を行いました。今回は初の企画として、豚汁300人分の炊き出しをしてはどうかという提案を子どもたちと一緒にさせていただいて、また、18名の子どもが手を挙げて参加してくれまして、皆さんにも大変喜んでもらいながらも、うまくいくところ、いかないところをそれぞれ経験しました。ボランティアとはこういうもので、こんな難しさがあるけれども、うまくいったらこんなにやりがいがあるということを、18名の2年生の生徒に体験してもらいました。

この18名の子どもたちに、生徒会の代表の生徒なども加わっていただいて、3月に向けてうまく形づくっていければ良いと思っています。今、相談しているのが、2020年のオリンピック期間中に子どもたちが遭遇するであろう場面を想定して、たくさんの方の外国人の方が新宿区にいらっしゃるときに、どんなおもてなしができるんだろうかということを想像しながら、何かしらのおもてなしのボランティアを形づくっていったらということで、子どもたちの感度を上げ

ていしながら、心に火をつけるような話を今、牛込三中のPTAの中で相談させていただいているという状況です。大会までもう2年を切りましたので、子どもたちの感度も大分上がってきて、今後、世の中に発信される何かのきっかけで、そんなことがあるのなら、自分たちはこんなことをしてみたい、おもてなしボランティアプラス英語学習というような、ネイティブスピーカーの方と一緒に町を歩きながら、新宿の良さを外国人の方にどう発信していくと喜ばれるだろうというようなことを考えて、形づくっていかれたらと思っています。

子どもたちのやる気が一気に燃え上がってくれば、期間は短いですが、今の3年生が卒業する前の3月に何か一つ、英語おもてなしボランティアというようなことができればいいという話をしていますので、ぜひ引き続きサンサン大作戦のほうをよろしくお願いします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ぜひすばらしいものに仕上げていただければと思っています。

ほかの委員はいかがですか。

【委員】

私は、今回の500日イベントの開催場所となっている西新宿小のPTA会長も務めているのですが、もともこの角筈地域、淀橋地域は、ボランティア意識が高い地域であり、隣の西新宿中学校は、1年中当たり前のように地域のお祭りのボランティアをやっています。むしろ、我々がボランティアを少し大げさなことにし過ぎてしまっている節があると思っています。500日前イベントに関しても、何人かの中学生に手伝ってほしいと当たり前のことのように指示をいただければ、西新宿中学校でしたら50人ぐらいすぐ集まるでしょうから、ぜひご活用いただければと思いました。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ほかの委員はいかがですか。

【委員】

私は東京2020大会普及啓発部会に入っており、今まで1000日前イベント並びに777日前イベントについては、私自身は単に参加するだけだったのですが、新宿区体育協会として、また新宿区民として、何か皆でこうやって一つのイベントをつくれないかという形で提案をした一人でもあります。そこで、今回、このような500日前イベントというステージをいただきまして、新宿区体育協会としてもできるだけ出展をしていこうという形で、今回、何団体に手を挙げていただきました。

本来でならば、オリンピック種目やパラリンピック種目に関しての種目のほうがよろしいのですが、今回のコンセプトとして、互いに楽しむというところがありましたので、お子さんたちから年配者の方まで楽しめるということで、今回、新宿区体育協会のほうからは、サッカー、スポーツチャンバラ、グラウンドゴルフ、民謡の4団体が出展します。

我々もこれを機に、こういった新宿区のイベントに関しては積極的に手を挙げて参加してい

きたいと考えています。一人でも多くの方の参加を募って、2020年に向けてとにかく新宿区体育協会一丸となってこのイベントを盛り上げることを考えています。よろしくお願いします。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ほかの委員はいかがですか。

【委員】

新宿区社会福祉協議会では、先ほどからお話にてているような、若い方たちのボランティアへの参加ということで、今年度、新宿区社会福祉協議会の事業で体験ボランティアというものを夏場に多く実施しました。今年はメニューも増やしたところ、かなりの数の若者が参加してくださいました。ただ、これを今後どのようにつなげていくかを一つの課題として社会福祉協議会は捉えていますので、また引き続き若い方たちへの参加を呼び掛けたいと思っています。

また、今回の500日前記念イベントについても、特に障害者の方の体験など、障害を持った方と子どもたちがコミュニケーションをとれるようなゲームを企画しています。また、障害者用の車椅子を持っていますので、その試乗体験も含め、ブース出展を予定していますので、そういうことを通じてますます関係づくりを進めていければいいと思っています。

【村岡座長】

ありがとうございます。

色々なことを各団体にお考えいただいているようですので、大変心強く思っています。ぜひ良い形になるように、これからも進めていただければと思います。

ほかにご発言のある委員はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

これまでの部会の様々な検討結果を踏まえて、今回のイベントが構築されていると考えています。このイベントの結果を受けて、更にその次のイベントが構築されていくことと思います。委員の皆様におかれましては、ぜひこのイベントにご来場いただき、より効果的なものとするためにはどうしたらいいのか、あるいはどういう協力ができるのかということをお考えいただいて、協議会や部会の場で議論させていただければと思います。

次に次第の2、大会気運の醸成に関する新宿区の取組みについて、お諮りをしたいと思います。

大会500日前イベントだけではなく、新宿区の全体の取組みについても、これまでの部会の検討結果を踏まえて新しい試みなどが取り入れられているようですので、その点について事務局からご報告をいただき、この協議会の中で意見交換をしたいと考えています。

それでは、事務局から説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

では、事務局からご説明をさせていただきます。

資料2「東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の取組みについて」をご覧ください。

まず、新宿区の気運醸成に関する取組みについてはこれまでもご報告させていただいたとこ

ろですが、今回、各部会の検討結果の報告の柱立てに沿って、改めてまとめさせていただいたところですが、

それでは、まず、各団体の主体的な取組みにおける普及啓発の推進という分野です。

(仮称) 東京2020オリンピック・パラリンピック区民参加基金の創設・運用ですが、2019年第1回定例区議会に条例案を提出するという予定で進めており、こうした基金を創設して、区内の東京2020大会に向けた気運醸成事業、文化・芸術活動等を支援します。

また、商店街でのフラッグの掲出も挙げており、2019年度予算として要求しています。

さらに、東京2020参画プログラムの推進ということで、これは2017年度から既に進めているものですが、これまで四谷大好き祭りや新宿区小学校PTA联合会様の各種取組みなどの中で、認証を取得していただいているところです。

また、町会・自治会等における普及啓発物品の活用ですが、例えば東京五輪音頭-2020-のCDや振付DVD、東京2020大会のはっぴなどの貸与を、各特別出張所を窓口として実施しています。

ほかにも、地域のイベント等における普及啓発ということで、トリックアート等を活用したブース出展というものを行っています。2017年度は7回、2018年度は、年度末までの見込みで20回の実績があり、地域センターまつりやあゆみ祭、はたちのつどいなどで出展しています。

次に、新宿区の主催イベントと連携した普及啓発の推進です。

本年度に実施した777日前記念イベント、2019年3月の500日前記念イベントなどについては既にご紹介させていただきましたが、その後の予定としては、2019年9月頃のラグビーワールドカップパブリックビューイング、2019年11月下旬に250日前記念イベントを予定しています。

また、大会直前のイベントとしては、大会直前から大会期間中のパブリックビューイングまで行いたいと考えています、ほかにも、聖火リレーに関連したイベント等を実施する予定ですが、こちらは2020年度の予定です。

さらに、新宿区シティドレッシングですが、こちらは新宿のまち中にオリンピック・パラリンピックの装飾を施していくという内容です。こうした装飾をしていくことで、新宿区民の方や新宿にいらっしゃる来街者の方に対して、オリンピック・パラリンピックに向けた期待感、ワクワク感を盛り上げていこうという取組みです。こちらは順次、2019年の2月頃から施行していきたいと考えており、新宿区役所第一分庁舎や新宿コズミックセンター、新宿スポーツセンター等の施設の外壁にラッピングをしていきます。

そのほか、新宿区区内の162施設の出入り口に大会エンブレムを掲出したり、新宿区役所本庁舎と第一分庁舎のエレベーターに競技シルエットのラッピングを行います。エレベーターへのラッピングのデザインの制作に当たっては、宝塚大学にご協力いただいています。

次に、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進です。

来年度実施を予定している取組みですが、子どもたち向けの取組みとして、オリンピック・パラリンピックをテーマとした絵画コンクールを実施したいと考えています。コンクールで募集した絵ですが、一つは、日めくりカレンダーを作成しまして、子どもたちに配布をしたいと

思っています。もう一つは、配電地上機器を子どもたちの絵でラッピングしたいと考えています。

また、陸上競技のシルエットシールとして、区立の小中学校40校の体育館等の壁面に、例えば棒高跳びや走り幅跳びなどの競技のシルエットを世界記録の高さなどに設置して、アスリートのすごさが間近で見えて分かるような取組みを行っていきたいと考えています。

そのほか、地域の方向けの普及啓発の取組みとして、東京五輪音頭の普及、また、外国人の方に向けたものとして、大会500日前記念イベント等において外国人の方も気軽に参加できるようなコンテンツを展開していきたいと考えています。

次に、東京2020大会に係るボランティア参加の促進です。

まず、新宿区において都市ボランティアへの推薦を実施しました。こちらは、12月21日に締め切ったところであり、全部で147名の方を推薦させていただきました。都市ボランティアの推薦募集の周知については、各団体の皆様にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

それから、ボランティアフォーラム2018を11月3日に開催しました。こちらは、鈴木先生に進行役を務めていただき、三井梨紗子さんを初めとして、東京都観光ボランティアとして活動されている方や平昌オリンピックでボランティアとして活動した大学生の方にパネリストとしてお話しいただきました。参加者は74名でしたが、この74名のうち、先ほど申し上げた都市ボランティアの推薦に応募された方は35名でした。このイベントには、新宿区社会福祉協議会や新宿区未来創造財団にもブース出展をしていただき、ボランティアの案内や日頃のボランティア活動のPRをしていただきました。

続いて、地域のボランティア活動・地域活動の参加の促進です。オリンピックに直接関わるボランティアということではないのですが、この東京2020大会でボランティアへの関心が高まるという機会を捉えて、日頃から行われているボランティア活動・地域活動も活性化していこうという趣旨です。具体的な内容としては、新宿区主催イベントの中でボランティアの募集の実施をしていくということ、それから、清掃ボランティア等の既存のボランティア活動についても参加プログラムの認証を取得していこうという取組みを実施しています。

次に、子どもたちのボランティア気運の醸成です。

次世代を担う子どもたちのボランティアマインドの醸成に向けたボランティア体験の機会の提供ということで、777日前イベントにおいても、アスリートのアテンド体験などのいくつかの体験型のコンテンツを実施したところです。

続いて、外国人のボランティア参加機会の創出です。

新宿区に住み、働き、学び、活動する外国人の方は大勢いらっしゃいますので、そういった方についてもボランティアとして参画・活躍ができる機会を創出していこうという取組みです。

今回の大会ボランティア及び都市ボランティアの募集に当たって、新宿区多文化共生連絡会のメールマガジンを活用したり、区内の日本語学校にも直接チラシをお配りするなど、情報発信に力を入れているところです。また、ボランティアフォーラム2018では、日本語学校の皆様

にもお声掛けをさせていただき、都市ボランティア推薦の申し込みにつながりました。

最後に、障害への理解の促進です。

まず、誰もが楽しめるイベントの展開ということで、今回の500日前記念イベントにおいて、先ほどご説明いただいたウォールパズルアートを実施します。障害の有無に関わらず、誰もが参加・参画できるコンテンツを展開していきたいと考えています。

また、2019年度には、障害理解促進をテーマとした講習会として、まち中における障害者の方に対するスムーズなサポートの仕方を身につけるセミナーを実施していきたいと考えています。

説明は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

これまでの経過に比べますと、かなり大きな内容追加が行われたと感じていますし、各団体におかれましても、様々な取組みが進められていると感じています。

ここからは全体での意見交換をさせていただきたいと思いますが、皆様からご意見をいただけますでしょうか。

【渡邊部会長】

私からは、先ほどご説明のありました新宿シティドレッシングのエレベーターラッピングについて、どういった形で取り組んでいるか説明させていただきます。

当初、デザインのモチーフは、新宿区で行われる競技を中心という話もあったのですが、オリンピックそのものを皆様にご覧いただくということで、様々な競技を取り上げています。中でも、東京2020大会での追加種目であるスポーツクライミングやサーフィン、また、陸上といってもオリンピックだけでなくパラリンピックの陸上も取り上げています。

本庁舎のデザインですが、単なるシルエットではなく、できるだけ躍動感がでるような表現、もしくは空間を感じさせるような表現を取り入れています。本校の大学院の1年生の事業にコンテンツデザインという授業があり、その中で制作チームを編成し、当初何十種類のシルエットを挙げ、そこからいくつか絞っています。

第一分庁舎のデザインですが、漫画風のイラストにしています。近年、漫画の表現力が非常に注目されています。漫画といっても、何コマで成り立つページものではなく、一つのシーンを切り抜いた形にしています。また、写真と異なり、漫画というものは非常に強調した表現を使えます。写真のペースではない部分を生かしながら、その競技をより魅力的な形で表現しています。こちらは本学の4年生が手掛けています。現在、新宿区の健康部と協働で、新宿区報において健康についての漫画を描いているのですが、その漫画を担当している学生に、こういった描き方を提案をしていただきました。

漫画ということですので、カラーなのか白黒なのかという点があったのですが、一番漫画らしい白黒という形で今回は提案をさせていただいています。デザインの完成はまだまだ先ですが、こういった取組みを通じて区民の皆さんに興味を持ってもらう、また、パラスポーツを描

くことによって障害者理解につなげるというところを目指しています。

これ以外に大学独自の取組みも実施しています。現在、大学1年生の初年次教育という必修授業がありますが、その中で、区民に対するオリンピックの普及啓発提案として、20チームほどが大会の気運醸成の提案をするということを行っています。この結果を、できれば500日前イベントの際に結果報告という形で展示させていただきたいということも考えています。

【村岡座長】

ありがとうございました。

すごく躍動的ですばらしい絵になりそうで、期待しています。

ほかにかがですか。

【鈴木副座長】

今年の11月3日に行われたボランティアフォーラム2018ですが、区民に広くオリンピック・パラリンピックに向けたボランティア活動の参加を促していくという趣旨で開催いたしました。

当初、少し不安なところがありました。というのは、ボランティアの参加率が思わしくないという新聞報道があったからです。新宿区民に対してこのようなフォーラムを開催することで、どれくらい反応があるのかと想像していたところ、実際には74名もの参加がありました。また、当日に都市ボランティアへの推薦申込みが35名あったということで、とても良い結果になったと思います。

三井さんを初めとして、東京都観光ボランティアの方、過去大会にボランティアとして参加した学生の方が、非常に笑顔でボランティア活動の楽しさ、心構えを、全く堅苦しくなく、ボランティアをすることによって見えてくる、分かってくる楽しさ、やりがいといったものを素直に表現していただいたと思います。そこに区民の方々が心打つものがあり、その結果、よしやってみようという思いにつながったのではないかと思います。実際に開催するまで、区民のボランティアに対する関心度が少し分からなかったのですが、こうしたフォーラムを通じて、ボランティアをやりたい方がたくさん結構いることを実感できました。

来年度、新宿区でも様々な事業を組んでいます。また、区独自の新たなボランティア制度を考えていきたいというようなこともうたっていますので、それに向けて、ボランティア部会で具体的にどんなことができるのかについて更に検討を進めて、オリンピック・パラリンピックのためのボランティアだけでなく、国際都市新宿を更に盛り上げる、また、子どもたちが何か主体的に参加できるようなボランティア活動の仕掛けづくり、プログラム、コーディネーションを検討していきたいと考えています。

私からは以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。新宿区独自のボランティアについても、ぜひこれから進めていただければと思います。

三井委員もこのフォーラムに参加されていますが、資料にもありますように、ボランティアは行動一つでその国の印象を左右する存在であるということをおっしゃっていらっしゃいます。

たが、このようなことをおっしゃられた背景を含めて、少しご感想をお聞かせいただければと思います。

【三井特別アドバイザー】

私も、鈴木先生とともにボランティアフォーラム2018に参加させていただきました。そこでは、ボランティアは行動一つでその国の印象を左右する存在という話もさせていただきましたが、これは私がリオデジャネイロオリンピックとロンドンオリンピックに参加して、実際、どういことが印象に残ったのかと振り返ったときに、国の印象というのは、もちろん街並みや風景もとても印象に残るのですが、それよりも一番感じたことが、人から受ける影響や、与えてもらう気持ちでした。そういうものが一番印象に残ったという話をさせていただきました。例えば、ブラジルに行った際、皆さんの笑顔がとても素敵で、言葉が通じなくてもどうにかしてあげたいという思いが全面に出ているお国柄を感じました。危険な国と言われていたのですが、実際に行ってみると、とても温かくて、また行きたいと思いました。そのときに影響を与えてくれたのは、大会ボランティアの方々や選手でした。両親や家族は、観光の際にいわゆる都市ボランティアの方たちに相談したら、英語が話せないけど身振り手振りで教えてくれたと言っていました。そういうものを聞くと、ブラジルってとても良い国だと思いましたので、そういう話もさせていただきました。

先ほど鈴木先生もおっしゃっていたのですが、ボランティアを経験された方々が、自分自身にやりがいを見つけているということが、とても印象に残りました。自分からどういうことをしていったらいいか、せっかく来たのだからどういうことをしようかということについて、実際こういうふうに考えましたという話を聞いたのが、私自身にとってもすごくプラスになりましたし、聞いていた会場の方々にも一番響いたのではないかと思います。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ボランティアは、本当に大会を成功させるためには、極めて重要な存在ということになりますので、私もオリンピックを何回か経験していますが、ボランティアの存在にはとても感謝しているところです。新宿区としての独自の取組みをというところもあろうかと思っておりますので、ぜひ積極的に関わっていきたくと思っています。

ほかの委員はいかがでしょうか。

【委員】

2019年3月に新宿文化センターでNHKのど自慢大会が開かれます。まず、3月23日に予選があり、3月24日に本選があるのですが、その際、ホール内のホワイエという場所で、東京2020大会のパネルコーナーや体験コーナーを設置する予定というお話を伺っています。何か具体的に決まっていることはございますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

2019年3月23日と24日に新宿文化センターにNHKのど自慢がやってくるということで、氷川きよしさんと平原綾香さんがゲストとしていらっしゃる予定です。こうしたせっかくの機会

ですので、その会場内にトリックアートのパネルコーナー、フォトコーナーを設置いたしましたので、ご来場いただいた方にそういったところで写真撮影をしていただいて、オリンピック・パラリンピックを感じて帰っていただきたいと思っています。

【村岡座長】

ありがとうございます。

ほかにもございますでしょうか。

先ほどご説明がありましたように、東京2020大会の基金が創設されるということがございました。これまで資金的な問題でなかなか動けなかったという団体を後押しできるようになったのではないかと思います。この基金に関して何か発言したい、あるいは聞いておきたいということがございましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局のほうからもう一度、簡単な流れについてご説明いただけますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

スケジュールとしては、2019年の第1回定例区議会に条例案を提出させていただき、制度そのものは2019年4月からの運用開始を予定しています。2019年度と2020年度の間に取り組んでいただくこうした文化芸術活動の発信を目的としたような事業の支援ということで進めていきたいと考えています。制度の詳細な内容については、整い次第ご報告させていただきます。

【村岡座長】

ありがとうございました。

大会に向けた新たな展望が見えてきたと感じています。それに伴い、協議会や部会で取り上げたい内容も随分と増えてきたなという印象を持っています。次回以降も引き続き協議会や部会の中で、より効果的な取組みとするにはどういう工夫ができるのか、必要なのか、その辺りを話し合っていきたいと感じていますので、何とぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、次第3、区からの情報提供です。

前回の9月の協議会から3か月ほどしか経っていませんが、その間、大会のボランティアの募集が行われまして、先般の報道にも応募者数などが発表されています。こちらに関しては、報道等で目にする方も多かったのではないかと思います。改めてこのボランティア募集も含めて、現時点における大会に関する情報についてこの場で共有したいと思います。

それでは、事務局からご説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、説明させていただきます。

まず、大会ボランティアと都市ボランティアの応募状況です。

本日の報道でもございましたが、大会ボランティアは8万人の募集枠に対して18万6,101人の応募があったということでした。都市ボランティアは一般公募の枠2万人に対して3万6,649人の応募があったという発表がございました。

続いて、東京2020大会における子どもの競技観戦です。こちら先日、東京都の教育庁から発表があったところですが、観戦を希望する都内の全公立・私立学校に対して、大会期間中、

オリンピック競技又はパラリンピック競技の観戦の場を提供していくという発表がございました。現在、詳細について東京都の教育庁と各区市町村教育委員会で調整がなされているという状況です。

続いて、東京2020算数ドリルをご紹介させていただきます。こちらは組織委員会が製作しているものですが、2020大会を捉えた子ども向けの取組みの1つであり、2018年度は渋谷区で試行され、2019年度は都内で展開していくということです。都内の小学6年生に全員に配布する予定と聞いています。こちらは上巻と下巻とございますが、上巻がオリンピックのアスリートが登場しており、下巻がパラリンピックのアスリートが登場するという形のドリルになっています。

実際の算数の問題などをオリンピックの競技になぞらえて製作をしているという内容で、例えば、下巻ではボッチャの球の散らばりについて、的球からの距離を測ってその平均値を出すなど、競技を基に算数を学ぶ内容になっています。

続いて、メダルプロジェクトの実施状況です。2018年6月までの回収分ですが、銅については既に目標量を達成しています。それに対して、金と銀では目標量の半分程度となっており、今後もより一層このPRに力を入れていきたいと思っています。メダルプロジェクトとしては、来年の3月で回収が終了となっており、その後メダルの製作に入るというスケジュールになっています。3月3日の500日前イベントの中でも、回収ボックスを設置する予定です。

続いて、聖火リレーについてです。日本国内全体のスケジュールについては、前回、情報提供させていただいたところですが、その後、東京都の中の回り方について、東京都の実行委員会の中で検討が進められています。巡回順の案ですが、聖火リレーのコンセプト「希望の道を、つなごう」を体現できる場所からスタートしていこうということなどが示されているところです。

島しょ部の移動については、先日、報道でもございましたが、瞬間移動的な方法で運ぶということになっています。東京都については、2020年7月10日から7月24日までの15日間で62区市町村を回るというスケジュールになっています。おおむね時計回り又は反時計回りというルートで、原則、隣接する市町村にリレーをしていくということになっており、基本的には新国立競技場に段々近づいていくというルートになるのではないかと思います。新宿区では何日の何番目になるかということは、まだ発表ございませんので不明ですが、恐らく後ろのほうの順番になるのではないかと想定しています。

続いて、パラリンピックですが、パラリンピックの聖火リレーについてはオリンピック終了後に実施するということになっています。また、聖火台についてですが、先日の報道にもございましたが、聖火台を2つ製作するという方針です。1つは、新国立競技場で使われる式典用の聖火台で、もう1つは、大会期間中に使用される聖火台で、大会期間中に設置されるものについては臨海部のほうに設置されるということです。

続いて、東京都における民間施設を活用したドレッシングです。大会スポンサーではない民間施設に関しては、大会エンブレムなど、大会関係のものを掲出することは基本的には

できませんが、こちらは東京都が今年の8月からスタートした制度であり、東京都が装飾の実施主体になることで、それらをクリアしていけるという仕組みです。基本的には、東京都は大会エンブレムを掲出するという承認を行い、掲出場所の提供や掲出物の作成、掲出、維持管理、補修・撤去、それからそれに係る費用を施設所有者が負担するということになっています。また、掲出できるものは基本的に大会エンブレムであり、大会エンブレムと企業名称、企業ロゴ等とが近接しないようにするといったアンブッシュマーケティングへの配慮が求められます。こうした形で民間施設にもエンブレムが掲出できるという仕組みができたということで、ご紹介させていただきました。

最後に、こちらは新宿区の取組みになりますが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けたトイレの整備についてです。新国立競技場周辺、ターミナル駅の新宿駅周辺、マラソンコースになる沿道周辺にある公衆トイレのリニューアルを図っていく事業です。25か所のトイレの改修を、2020年度まで実施していくという内容です。

説明は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

委員から何かご意見等はございますでしょうか。

【委員】

トイレの整備について、多機能トイレ、特に屋外にある多機能トイレは入口が鉄扉でできており、冷たい感じがするようなところもございます。他区の取組みでは、トイレをアーティストや学生などがペイントするという事例もあります。

先ほどのエレベーターラッピングのデザインがありますので、そういった多機能トイレの扉にエレベーターラッピングのデータを張りつけられるような仕組みなどを検討してはどうかと思います。恐らく、まち中でもこういった大会に関するイラストが見られるというところで、区民の方々の気運醸成につながるのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

【村岡座長】

ありがとうございます。

委員の今のご提案については、それをしかるべきところで検討していただくよう、よろしくお願ひ申し上げます。

ほかにごございますでしょうか。

それでは、これをもちまして平成30年度第3回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会します。

ありがとうございました。

<閉会>